

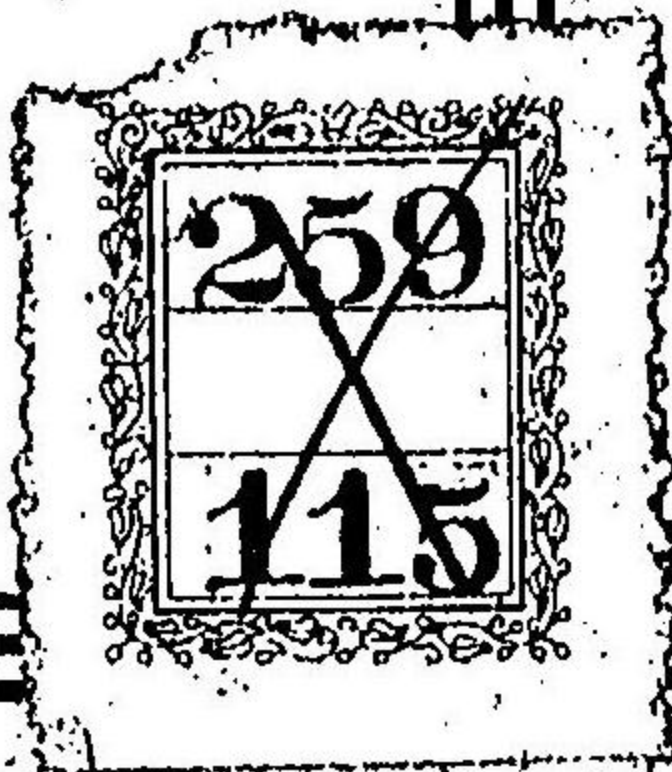
特 72

34

島田三郎君演説

禁酒は税源を擴む

東京 銀座會館發行



301576-001-4

特72-34

禁酒は税源を擴む

島田三郎/述

M42. 2

BDE-0001









34

# 禁酒は税源を擴む

(明治四十一年十月九日神田基督教青年會館に於て)

島田三郎君 演説

諸君、私は今日の司會者並に禁酒同盟會會長安藤君の御紹介を得て此壇に登つたのでありまが、餘りに廣告が立派であるがために、其品物が自ら顧みて披露の如くならざることを嘆息致すのであります(ノウノウ)併ながら彼の廣告と披露とは私自ら述べたこととてございませぬから、之を私が取消す譯にはいかぬので唯恐縮するのであります、安藤君は此禁酒事業に如何にも熱誠であつて、さうして東京禁酒會會長であり併せて同盟會長であつて専心一意此事業に盡力せらるゝのであります、此安藤君は過去を顧ると極めて多方面の御方であつたといふことを私は回想するのであります、只今此席に於て安藤君がブライアン氏を想ひ出すと云はれましたが、私は安藤君の多方面の歴史を想ひ出すのであります、今日は極めて謹慎なる態度を以て専心一意禁酒會會長として盡瘁されて居りますが、嘗ては船乗であり軍人であり更に外交官であつたといふことを私は記憶するのであります、今を距る四十一年には、函館に人の目を驚かすところの軍に従つて、大に勇氣を奮はれた御方



でありますし、又十數年遡りますると、外交官として大に手腕を揮はれた御方であり、此の如く何れの方面にも爲す有るの力を、今日は専ら禁酒事業に集めたのでありますから、禁酒會の勢力が加はるといふことは尤も至極であると私は思うて居ります、是は決して御世辭にあらずして私自身が安藤君に接して之を實驗したのである、實は私は今日此壇上に登ることを重ね重ね御辭退を致したのであります、安藤君の熱心と安藤君の外交的手腕のために辭する能はざる境遇に至つたのであります、(拍手喝采)それは外の事でもない、昨年近縣からは是非私に禁酒の演説をしるといふ誘引を安藤君を経て受けたのであります、私は禁酒の事に付ては安藤君の其弟子でありますから、此後輩が態々安藤君の御紹介を得て近縣へ參るといふことは僭越の至りであり、且つ言ふべきところの材料に甚だ乏しいのであつて、禁酒會の機關雜誌國の光を常に讀んで禁酒の問題を研究しつゝあるのであります、實行の點に於ては會長の信任に背かざる程に規則を守つて居りますが、研究の點に於ては甚だ未熟でありますから、近縣から招かれた其招きに應ずるだけの勇氣もなく又之が爲めに近縣に出かけるだけの暇が無かつたので、此二つの理由を以て私は辭退致しました、然るに時間の無いといふだけの理由は聽入れるから、近縣へ往かずして此東京で説を述べるといふことでありますから、昨年五月一日此壇上に於て私が平素考へて居る

ところの一場の禁酒説を述べましたが、私の身に取つて餘りに御待遇の厚かつたのに驚いたのは、私の演説を速記せられて特に之を禁酒會雜誌に載せられたばかりでなく、別に小冊子として之を頒布せらるゝことになつたことに感激したのであります、併ながら此に於て私の言ふべき事は悉く此一席の演説に述盡してしまつて最早言ふべき材料が無くなつたのであります、若も是が速記せられずして私の言ふた事が諸君の耳だけに留つて空中に散じてしまつたならば、又別の席に於て同じ説を繰返す餘地があつたかも知れぬのであります、之を速記に留めて公にせられたのでありますから、其後禁酒に關する新らしい事實もなく、私の禁酒に對する意見は殆ど此速記録に盡してしまつた、併ながら私の請求が是がために容れられたといふことを更に喜ぶのであります、原來私が此演説を承諾した理由といふものは、禁酒會の雜誌に新らしい事實が屢々表はれて、毎月身を益するところの報告はありますけれども、其中に定まりたる一の目的に向て順序よく集めたところの説を私は欲しいと思つた、是は他人の爲にあらずして私自身が左様なものがあつたならば餘程利益になるであらうといふことを感じたがために斯様な議を提出したのであります、例へば此問題に付て専門の智識を持つて居るところの人々に指を屈して見ますれば、先づ第一に醫學博士の片山君或は醫學博士の大澤君、是等の人に禁酒の説を述べて戴いて、さうし



て何人が見ても禁酒の大切なることを一篇の文章又は一篇の演説筆記、一冊の印刷物によつて理解するといふことであつたならば、全国の禁酒會員並に禁酒會員の朋友に向つて大なる利益を與へるのであらう、是に付て是非とも先づ片山國嘉君に一席の演説を請うて之を速記して戴きたい、更に精神病に付て最も深遠なる知識を持つて居らるゝところの醫學博士吳秀三君の如き専門の御方に酒と精神の關係の演説をして戴いて、之を速記したならば此方面に於て「オーソリチー」として人に讀まれるであらう、大澤君の如き片山君の如き吳君の如き方々に各々其専門の研究を發表して戴くことを禁酒會で御催しになつて、之を速記したならば極めて利益であらう、之を爲すことを禁酒會で企てられるならば私は其先手となり露拂となつて序文なり或は緒言なりの代りに、専門の研究を持つて居らざるところの私が演説を致して此の如き舉を爲すことを勸告するといふ役を勤めるであらうと、斯機なる發議をいたしました所が、それも是非及ぶだけやる考であるから君先づやれといふので、昨年の五月一日此壇上に於て私の考へて居るところの有らゆる材料を一席の演説に提出し盡したのであります、是が一冊の速記録となつて表はれましたから、最早此上言ふべきところの餘地が無くなつた、併しながら私の提出したる此請求が容れられて、遂に片山國嘉君の演説が一冊の冊子となつて世の中に表はれて、さうして容易く吾々も讀むことのであります。

機會を得たのは私の説が一部行はれたことを歎び其實行に盡力せられた禁酒會に感謝するのであります。

昨年の十月禁酒同盟會の催に係る今日の如き大會が名古屋に於て開かれたる時に、又安藤君が其外交手腕を揮つて再び私を説得にゐるになつたので、私は此説得に應ぜざるを得ない境遇に立つて、遂に同じやうな事柄を名古屋に於て繰返すの窮境に陥つたのであります。最早安藤君は三度私を説得に來られまいと思つて居りました、然るに何を料らん此頃に至つて三度是非此壇上に立てといふ御催促に預かつたのであります、私は事實を述べて切に辭退をした、一つは禁酒會の御方の参考になるべき新たな事實を私は持つて居らぬ、私の研究は昨年より以上進んで居らぬ、もう一つは極めて時間が乏しくして更に研究をして短き時日の間に考を定めることが出來ない、此二つの理由によつて御辭退をするといふとを切に申したのであります、安藤君はナカ／＼許さない、こゝが曾て領事であつて外交官たるの手腕を揮はれた技倆を禁酒事業に現はされたのであります、安藤君は談話の中に極めて巧に私をして同意をさせたのであります、(拍手喝采)私が言ふべき事柄は無いと云ふたら、然らば私の方から演説を出すからそれに付て考へる、題を出されたところが新たに考へる暇がない、と云ふ中にも前斯ういふ事はどう思ふといふ話が出



た、それは禁酒會員が諸方に禁酒のことを勧めて働いて歩行間に會す問題は何かといふと、酒は何れの國に於ても租税の一大源泉となつて居る、若し禁酒會の説が行はれて残らずの人が酒を飲まなくなつたならば、これが爲に國庫の收入に不足を告げるといふ問題がある、殊に今日は日本の税源が涸れ盡さるといふ聲が甚だ盛であつて、其上に七千餘萬圓以上の税源が涸れるといふことであるならば、禁酒會は實に國家の財源を涸らす悪い働きをするものであるといふ説が世の中に成立つて居るが、之に付て君はどう思ふかといふ安藤君から御話があつた、つひ此話に釣込まれて(拍手喝采)私は左様に思はない私は丁度それと反對の意見であつて、若し日本に禁酒會の説が實行せられて愈々禁酒の人民を以て日本帝國を組織することになつたならば、一層税源は豊かになると考へて居る、斯う云つた所をばそれだ、それを演説して貰ひたいといふのであります、(拍手喝采)安藤君の應接に巧なるは此の如きものであつて、唯今も短き演説の中に極めて諸君の御同意を得、満場を感動せられたのも誠に尤もであつて、私は此短き談話の中に演説をしなければならぬといふ境遇に立つたのであります、安藤君の熱誠に乘るに手腕能力を持つて居らるゝことが是に於て實現したのであります、此の如き次第で私は辭する能はずして禁酒會が本統に力を現はしたならば税源は愈々擴がるといふ題を安藤君の爲に取られたので、遂に「禁酒は

税源を擴む」といふ題を掲げるに至つたのであります、然るに更に安藤君は此熱心を一步進めて再々手紙を御遺しになつて又訪問せられたことが二回、手紙を寄越されたことが前後四回であつて、其終りの一回は此題目を掲げて之に付て非常な良き演説があるから是非聴きに參れといふ豫告をされて、其豫告を版に刷つて私に御與へになつたのであります、是は實に意外のことであつた、(拍手)私は安藤君の談話から自分の意見を述べることになつたので、實は是に關する好材料が無いのでありますから好材料が無くして好演説を爲すといふことは全く原因なくして結果を求めると同じでありますから、諸君の望に背き併せて會長の依託に反することが恐縮に堪へぬのであります、併しながら既に言質を取られて此演題を出した以上は致方がありませんから、是から税源は確に禁酒によつて擴められるといふ私の考案を述べやうと思ひます。(拍手喝采)

前に申しました通り禁酒が實行せらるゝに至れば七千萬圓の日本の財源を如何にするか、此説は蓋し日本の内部に大に行はるゝばかりでなく、是と類似の説が矢張外國にもあることを私は考へる、其一の類例は何であるかといふと、彼の阿片問題であります、印度の政府の財政といふものは、本國より補足をしないで印度から取上げるところの税によつて印度の政治をやつて居るのである、其收入の大切なる一種目は何であるかといふと阿片の税



てあります、此阿片の喫用は印度の領内に於ては白人に禁じてあるに拘はらず、他の人種の中には相當に行はれて居つて、更に之を東洋、専ら支那に入れましてさうして此阿片商業の繁昌を圖つて居りますが、萬一此阿片を禁止するといふ彼の禁煙黨の説が行はれたらば、印度の財政に大なる損害を與へるから容易に之を禁ずることが出来ないといふ議論が、英國にも相當の力を持つて、今日まで引續いて居りますが、年々禁煙黨の勢力が熾になつて来て、此説が段々衰へてさうして今日に於ては有志家の盡力により、支那、日本、亞米利加、英吉利此四箇國の政府の力を併せて、どうか阿片を禁止したいといふ活動するところの勢力が殖えて來ましたから、遠からざる將來に於て必ず阿片を禁絶するに至るであらうと思ひます、併ながら之を禁ぜんとする活動の激しいと同じ割合に阿片を禁止せられたる後の印度の税源を如何せんといふ説が相當な勢力を持つて今日存して居りますから、酒に關して是と同じ論法が日本に行はれることは避べからざる事情であらうと思ふ、更に阿片の事を他に推及なせば、今日若し獨逸に禁煙黨が非常な勢力を得て麥酒を飲む者が無くなつたならば獨逸の財源に傷が付くであらう、又佛蘭西に若し禁煙黨が勢力を得て葡萄酒の醸造が無くなつたならば佛蘭西の富を如何せんといふ説が必ずあるに相違ないといふ私に思つて居ります、然らば日本に於て酒を飲む人が無くなつて酒造が自然廢絶する

に至つたならば、日本の税源は涸れて即ち今日現在の豫算に於て七千餘萬圓の缺陷を如何にするやといふ説の出るのは決して怪むに足らぬので、此説は常に普通の俗説として世の中に行はれて居るばかりではない、嚴として面目を守るところの政治家も政治家も皆公然と此事を言つて居る、のみならず世間の話の中にも酒を飲む人が私は多くの拂税をつて居る、國に對して多分の義務を盡して居るといふことを酒を飲みつゝ物語るのてありますが、其裏面には吾々の如く酒を飲まざるところの者は税を拂ふ額が少くして國に對する義務を盡す分量が少いといふ批評を被るのが當然なる論法であると思ひます、是は單に一場の笑話として聽くべきものにあらずして、眞面目に財政問題として研究すべきものであります、殊に禁煙黨は此結果如何といふことを考ふべき問題であると思つて居ります、此の如く思つて居る途端に安藤君との談話となつて此問題を如何にするやと云はれるから、私は左様に思はぬと申しましたらば其思はざる理由を述べよといふので即ち是から述べるのが其本文であります。

日本の酒の税は四十一年度の豫算によるに七千〇八十七萬四千四百九十八圓とあるから、之を先ず七千萬圓と概略に見積ります、是は純粹の日本酒によつて取るところの税であり、但し、此外に酒精だの何だのと種々な酒を一類二類三類と分けてあります、それからは



は少数なる額でありまして未だそれ程の高には上つて居りませぬけれども、内地で醸造する麥酒がありますから是等のものを合せたならばモチツト額を増しますけれども、先づ概略なものにて議論を立て、細かさところの算数は議論の根據を動かすに足らぬと思ひますから私は之を略します、今日の豫算の概畧が六億二千萬——或は六億千五百萬圓と云ひ或は追加豫算を込めて六億二千萬圓と云ひますが、是も概略と致して六億三千萬圓と私は申します、六億二千萬圓の真中に年々固く國庫に入りますところの金額は四億二千萬圓ばかりであつて、他のものは或ひは過去の餘りたるところの金を此中に入れる、或ひは今日既に止めると噂されて居るところの公債を以て之を填めるのでありますから、本統に固く取れる租税は四億二千萬圓であつて其中七千萬圓が酒の税でありますから、税源の重なるものと之を云ふことは眞であつて此間に一點の偽は無いのであります。

而して此酒の高はどれだけだけであるかといふと醸造高は四百二十二萬四千石であります、總體の酒の値段はどの位であるかといふと二億九千五百六十八萬圓となります、之を概略して少し強めますると先づ三億になる、酒の價格が三億ではから取るところの税が七千萬圓其小別を致しますると一石の値段が約七十圓であつて、其中税として取るのが一石に付て二十圓でありますから、正味酒の値段を五十圓と立て、宜からうと思ひます、尙此外に外

國から輸入するものがありますから是も算入して、さうして禁酒會の方で害を論ずるときはナカ／＼是に止まりませぬ、外國から輸入るところの酒精といふものは約百〇八萬七千七百四リットルとありますから、是だけのものが外國から輸入つて來て、是に水を混ぜて分量を殖して酒の如き形にし酒の如き味にして之を飲ませるのでありますから、日本人の飲む酒は前に述べたところの四百二十二萬四千石に止まらずして分量がモツト多い、尙ほ序ながら麥酒の石數を述べて置きますが先づ麥酒が約十五萬石、此中内國で費するものが約十二萬五千石でありますから、諸種の酒類總體が餘程多くなつて居ります併しなから酒の上の話は禁酒會の専門の方の御調査に譲つて、私は國民が酒を止めてしまつたならば國庫を充すところの税の上はどういふ關係を來すかといふことを論ずるのが目的でありますから、此方面に詳しい説を向けて飲む酒の額は唯今擧げた位に止めて置きます。

此中酒の税と人民が酒に拂ふ金とを區別して見れば直に此問題を決することが出來やうと思ひますが、酒のために日本で米を潰す額が幾許であるかといふと約二百八十九萬五千石、是が日本内地の米を酒のために潰す額であります、御承知の如く日本の人口は年々十五萬位殖へます、土地の開ける面積は決して是に副ふだけに開けて參りませぬから、年々日本の米は不足を告げるのである、さうして此米の不足を告げることが何れの年に於て



も免れませぬので、此不足額だけは外國から米を入れるのでありますが、後來に至れば益々其不足が多くなつて來るといふことは何人も豫測して誤らぬところの計算であらうと思ひます、それは何故であるかといふと日本の傳染病豫防法が進み更に種痘法が進んだ關係から、昔に較べますと人口の殖へ方は餘程迅速である、併しながら日本は大陸國でなくして島國であつて又山多き國でありますのと、もう一つは日本の氣候は米のために最も適したる國といふことが出來ないので、寧ろ米よりは麥である、麥よりは桑であるといふことが、今日農學家の問題となつて居るばかりでなく、凡そ常識を以て判断すれば麥に得るところの利益よりは桑によつて得るところの利益が多いといふやうになつて居るのでありますから、米の産額が著しく殖へることを見積ることは出來ない、併しながら肥料や其他の進歩によつて米も幾らづゝか殖へて參りますけれども、人口の五十五萬づゝ殖へて行く割合に米は殖へないのであるから、今年の如き豐年の時でも矢張外國から米を輸入致します、況んや一昨年昨年の如き平年に比して不作であつた時には外國の輸入米がモツト多額に上りますが、兎に角此の如く米の不足を告げるところ我日本で酒のために米を潰しまする其高が二百八十九萬五千石であつて、之を一石十六圓と見積りますと約米の代で四千六百三十二萬圓といふものを酒のために犠牲にして居るのが今日の有様であります若し酒

のために米を潰さぬといふことになつたならば米の値段が幾分か廉くなるといふことは全體の經濟上の利益の點として之を數へることが出来る、尙ほ米の輸入額が是がために幾らでも減るといふことになりましたならば、内外の貿易の上にて日本の經濟上に利益があることも是亦た容易く見ることが出来るのであります、(拍手喝采)  
 さて日本人口が四千八百萬といふ人もあり四千七百萬といふ人もあり概略五千萬といふ人もありますから、計算の便利によつて私は五千萬人と日本の人口を立て、御話をします、此五千萬の人が酒のためにどれだけの金を拂うて居るかと言へば即ち前に挙げましたところの約三億の金を拂うて居るので、此中に酒を飲まざるどころの人口も澤山ある、例へば子供は酒を飲みませぬ病人も酒を飲みませぬ婦人も多くは酒を飲みませぬから、是等の人口は酒のために金を出さざるところの人であります、之を殘らずの頭に割付けて働かさない子供までも矢張酒の代を拂ふものと見積つて計算を致して見ますと、五千萬で三億を割るのでありますから一人に付て平均約六圓の金を一年に酒のために拂つて居るので、一箇月に殘らずの人が五十錢づゝ酒のために價を拂つて居るといふ計算になります、  
 酒の税と並に酒のために拂ふ人の費えとの割合がどういふ計算になるかといふと、三億の



金を國民は拂つて居つて政府の國庫に入るところは僅に七千萬圓に過ぎないのでありますから、三億の中から七千萬圓を引いた残餘の二億三千万圓といふものは全く税とならずして唯だ國民が酒のために費して居るといふ許算になる。

若しも禁酒運動が盛に實行せられてそうして全く禁酒黨の人民ばかりで日本を組織することになりましたならば、總體に於て政府の國庫の減が七千萬圓であつて人民の利益するところのものが實に二億三千万圓となる、此二億三千万圓を人民に拂はして政府の得るところ僅に七千萬圓に過ぎないといふ此酒の税が果して之を好財源と見ることが出来るかといふと、此第一の論點に於て私は甚だ宜しくないとこの税源であると云ひ得るのであります（拍手喝采）米の關係を云うて見ますれば年々米は外國から入れなければならぬ、今年年の如き豊作でも矢張米は足りないものであつて人口は段々殖へて來るのでありますから、初めの時には約そ年々五十萬人殖へるといふ統計であつたのが今日に至りては五十三萬或は五十五萬といふ統計になつて居りますから、是から十年の後に至りましたならば一年の人口の増すことが五十八萬にもなるであらう、尙ほ其以後になつたならば六十萬といふ人口の増加を見るに至るであらうと推測致しますが、其割合に決して日本の地方は増すのではない、如何に肥料を施しましても如何に農作が進歩しましても、地面に限りのある國で食

料をそれ程迅速に増すことの出來ぬといふことは是は定まりたる事實でありますから、後來は米の不足が益々多くなるべき計算であると私は思つて居ります、此米の不足なる國に於て酒のために米を潰すこと二百八十九萬五千石、之を一石十六圓と致しますと四千六百三十二萬圓といふものを酒のために費して居るのであります、さうして人民が酒のために拂ふところの價が二億三千万圓で政府の得るところは僅に七千万圓に過ぎないならば、是が止んだ時はどうするか、繰返して申せば酒を止めれば外國から米の輸入の高が少なくなつて、日本の全體の米の値段が廉くなるといふことは誠に明白な結果であらうと私は思ふのであります（拍手喝采）一般の經濟上酒が世の中に有害であるといふことは定りたる事實であるから、私は更めて述べる必要はありませぬが、此酒の有害であるといふ事實は姑く除いて措いて、國民が二億三千万圓懷中から出して政府の得るところのものが七千万圓であるといふ此結果とそれから、米を是だけ多く使ひ潰すのと、是を同時に外國から米を多く入れなければならぬといふ、此三つの結果が唯だ酒を飲むために現はれるところを見ますと、決して是は好財源にあらずして不良なる税源であると斷定して一向差支ないことであらうと私は思ふのであります（拍手喝采）

それならば第二に移つて若し人民が酒を止めてしまつて、政府に七千万圓の租税を拂はな



いといふ方針を民間で執つたときには、此二億三千万圓の金は如何になるか、凡そ經濟上世の中に資本が残つて居れば他の新らしきところの事業に此資本を向ける、此資本は遊んで居るものでありませぬから、此二億三千万圓の金は人民の必要な方面に活動して行くといふことは當り前である、(拍手喝采) 例へば或る種類の織物に向つて資本を注ぎ込んで居る場合に此織物が一度衰へることになりますれば他の流行向の織物に此金を使はなければならぬ、國民が此資本を有して居つて此資本を無利息に置くといふことは何れの國に於ても經濟上有り得べからざることですから、若し年々二億三千万圓の金が國民の懷中に餘つたならば、日本の經濟は非常に膨脹して來なければなりませぬ、新らしき事業が躍然として興るといふことは定りたる事實である、(拍手喝采) 是がために金利が非常に下るといふことも事實である、日本の兌換券が二億六千万圓の所で年々二億三千万圓の金が餘つて、是だけのものが今迄空しく酒の料に使はれたのが今度は使はれないで若し之を貯蓄することになれば、銀行の預金になつて是が種々の方面に商工業の資本となつて働くのでありますから、非常なる利益を生ずる、従つて營業税が殖へ所得税が殖へて、是がために健全なる税源が新たに開けるといふことは必然の結果と考へます、(拍手喝采) 七千万圓の税源を客みて國民に二億三千万圓を使ひ潰さして是が良き税源である、是より外に此資本を使はれ

ぬものであるといふ天然の約束は何れにあるかと私は怪むのであります。(拍手喝采) 丁度是れと同じ論法を引きますと阿片のことであります、阿片は英吉利が印度の經濟、印度の財政を支えるに必要であるといふことは是は古き説であつて、現在阿片に反對する人々は一方は人道の爲に阿片禁止せざるべからずと論じ、一方は衛生の爲に阿片禁止せざるべからずと論じて居ります、それならば印度の財政は如何にするやといふに、彼の罌粟を耕して居るところの畑は罌粟を耕さなければ未來永劫荒地になるといふことは云へない、若し罌粟を耕さずして別に用ゐることになりましたならば是が棉の耕作地となつて來るのであらうと思ふ、棉の耕作地となつたならば之を或は木綿糸として印度から輸出するであらう、或は更に織物として輸出するであらう、阿片の税を得られない代りに棉の耕作者から税が取れる、紡績業者から税が取れる、織物業者から税が取れる、又之を外國に出すときには運賃として國民の懷中を肥すのである、人を害する阿片を作らなければ財源が無いといふことは、天然の約束にあらずして悪き習慣に染つた弊であるといふは思ふて居ります、(拍手喝采)

矢張此論法を酒に當嵌めることが出来るのであつて、何故に米を潰して酒にしなければ政府が税が收れぬといふのであらうか、酒に費すところの資本は變じて織物の資本となり或



は森林を繁茂するところの資本ともなり或は造船家の資本ともなり或は製造家の資本ともなつて、諸方へ二億三千万圓が分配せらるゝときには日本の商工業が大に興る、其結果商工業者が富を得たならば此營業の上から更に税が取れる、所得からも税が取れる、即ち天下の富を増しただけの税は確に課し得るのでありますから、假に國民が酒のために拂ふところの二億三千万圓が年々剩つて行くものと計算したならば、私は所得税の上に於て一億萬圓位のもは數年ならずして取れるか知れぬ、否な取れると信じて疑はないのであります、(拍手喝采)斯く考へ來ると多くの國民の品行を害し多くの國民の健康を害して七千萬圓の税を取らなければ政府の財政が立たぬといふことは、餘りに目先の利かざるところの財政説と云はなければならぬ、(拍手喝采)是に向つて阿片禁止論者の論法を當嵌めて見たならば釋然として此問題を解決することが出來ると思ひます、更に私は思ふ、此酒のためにどれ程日本が損をして居るかといふことを附加へて言はなければならぬのであります、之を附加する前に私はモウ一つ言ふことがある、唯今のやうな入込んだる計算によらずして單に二億三千万圓を日本人民が使ひ潰さずして此金が國民の富を増すといふことになつたならば、此増しただけを其儘他の目的に使用しても人民の懐中は損しない道理であります、此計算に於て二億三千万圓の税が此處に増したと假定め

て見ても宜い人民が酒を飲まなければ之を政府に出しても損がいかないといふ大雜駁の計算になるのであります、さうするとどうなるか、唯今まで日本が年々公債のために拂ふ金額がどれ程あるかといふと、國債整理基金の中に繰込むのが一億七千六百餘萬圓、此一億七千六百餘萬圓で公債の元利を戻して行く、公債の總額がどれ程あるかと云へば、現在の額が二十三億あります、さうして鐵道公債が全部發行されると是に五億加はりますから、總體で二十八億の公債を日本の國民が脊負つて居るのであります、是がために前途如何になるべきかといふ虞を生じて公債が非常に下落して、先日七十圓臺にまで落込んだ、今日は繰延をやる、儉約をして公債を償還するといふ豫言だけで景氣を引直して八十圓臺から九十圓臺に近づかんとして居りますが、どれ程の償還をするといふ豫言であるかと云ふに先づ元金に五千萬圓還すといふとを、政府の當局者が或集會に於て豫言をしたといふことが新聞に掲載されてある、二十八億の公債に對して僅に五千萬圓だけ元金を還すといふのであるから實は公債の大に減ずるといふことは前途尙ほ遠しであります、試に今日に於て二億三千万圓の酒の代を公債の償還に向けると致しますれば、此公債は數年の間に其大略を返し得るのでありますから、日本國民は自分の懐中から損をしないで酒を飲まない結果、今日國民が眉を顰めて居るところの公債問題が即坐に解決されてしまふのであります



す、(拍手喝采) 當局者が公債の元金を五千萬圓返すといふことを豫言してさへ公債の價格が上つたのだから、年々二億三千万圓だけの酒の代を公債の償還に向けるといふことを豫言したならば、現在の公債が額面に上るであらうと確信して居ります。(拍手喝采) さうしたならば唯だ此豫言だけで日本の富は非常に増すのである、日本の公債の價格が是だけ上つたならば商家の歡びは云ふまでもなく、世界中一番通りのよい公債の持主に日本國民がなるといふことになりましたならば、七千万圓の酒の税が全然無くなつても一向心配するに及ばずして又一般の利息が非常に下つて來ますから、若し一般の金利が五朱か六朱に下るとしたならば、一割の商賣大に儲かる、一割の工業大に儲かる、それ商賣をやれ、それ工業をやれといふので日本全國到處商工業は恰も春の暖き時節に草の生ずるが如く勃興するであらうと私は思ひます。(拍手喝采)

斯う考へて見ましたならば是から取上る税はどれ程になるか、私は豫算上の不足は何等の苦もなく之を補ふことが出來ると考へます、七千万圓の税源何を憂ふるに足らんや一向氣にするに及ばぬと思ふ、(拍手喝采) 要するに酒に資本を注ぎ込まなければ此資本は他に用ゐる途が無いといふが如き經濟上の最も塞つたる見解を持つて居る人が始めて酒に依らなければ税源無しといふべきに、何ぞ料らん經濟上の相當の智識を持つて居り識者と稱し財

政家と稱し經濟家と稱し政治家と稱するところの人が酒を飲みながら僕は酒を飲むから多く税を拂つて居るといふ程愚かなる話はないと思ふのであります、(拍手喝采) どうしても資本が世の中に豊かになれば從つて金利が下る、金利が下れば引續いて商工業が盛に興る然らざるも是だけのものを公債に返すといふ國民に決心がありましたならば直に公債が額面に上るのである、額面に上つたならば外國人が喜んで買つて行きますから、輸出入が平均を得ないとか或ひは金貨本位が危いとかいふ憂は一朝にして拂ひ得るのでありますから禁酒黨萬能を世の中に唱へることが出來やうと思つて居ります、(拍手喝采) 是は積極の直接利益であります、更に間接の利益を述べると必要があると思ひます、先づ第一に此二億三千万圓の資本を國民が使ひ潰すことによつてどういふ結果を得るかといふに、其結果は貧困が來る、貧困は富の反對で、其結果は犯罪が來る、犯罪は國の繁榮の反對で、其結果は國民の負擔が増す厄介者が出來る、疾疾癩狂が出來る、これから時間の消費がある、是は富を消耗する恐るべき國民の害である、それから氣力の衰へを來す、是も國民の勢力を衰へしめる大なる害であります、即ち酒の方へ二億三千万圓の資本を向けた結果は氣力の衰耗、時間の消費、疾疾癩狂者の増加、犯罪者の増加、貧困者の増加を買ふのであつて是がために七千万圓の國庫の收入を得たところが民貧にして政府獨り富むといふことは古今



東西無いのでありますから、私は有若の言葉を藉りて「百姓足らざれば君誰と共に足らん」といふ結論をしなければならぬのであります、(拍手喝采)

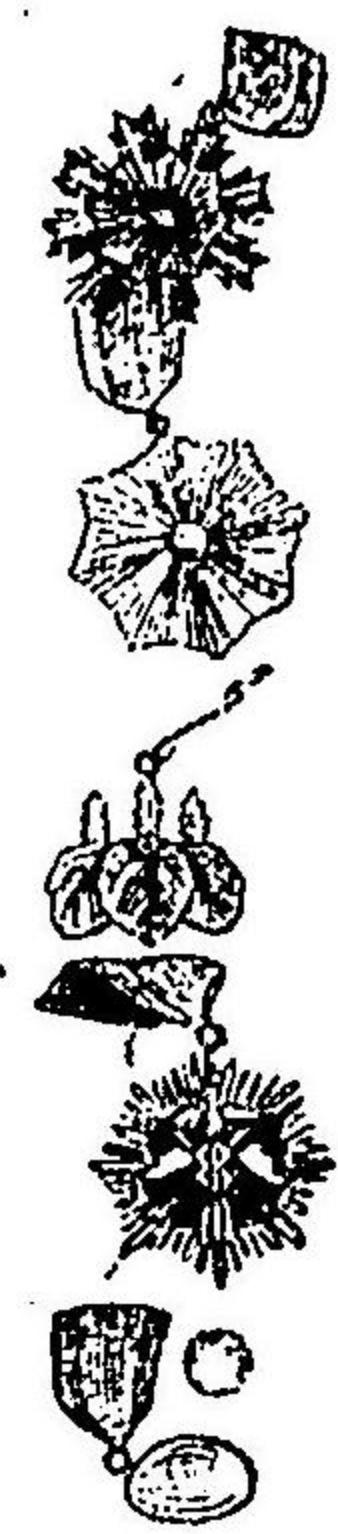
更に私は實地の問題として斯ういふ事を述べて見たい、先日私は救世軍の出獄人保護の勞役館の開館式に参りました、山室中佐の盡力の結果を讚美して大に謝辭を述べたことがありますが、此救世軍の開館式の終りに救世軍の大尉の某君が熱心なところの祈を捧げたそれを承つて私は始めの一句に驚いて終りの一句に至つて同意を表し大に感激したのであります、此祈の始めに「神よ願はくば救世軍をして世の中に無用ならしめよ」といふ言葉があつた、救世軍の熱心なる活動を世の中に無用ならしめよといふ祈の語を聞いたとき私は胸を打て驚いたのであります、其理由を聽いて見ますと世の中に悲嘆があるから之を救済しやうとして救世軍は活動するのである、例へば世の中に犯罪者がある、それ故に出獄人保護所が要る、世の中に墮落の婦人がある、それ故に墮落婦人の救済所が要る世の中に不良の學生あつて一身の方向を誤まらんとしつゝある、是等の學生に健全なる理想を與へんとして救世軍は活動して居る、世の中に職業を失うて居る人があつて朝夕飢餓に迫りつゝあるから、是等の者に安泊所を與へ廉價の食物を與へて世話をする、若し世の中の方が凡て善良になつて世に失職者も無く榮え、世に厭世思想を起すところの少年も無

く、世に墮落する婦人も無く、世に犯罪者も無いといふ世の中になつたならば、出獄人救済所の必要も無ければ墮落婦人救済所の必要も無い、救世軍は此の如き結果を得たいと骨を折つて居るが、是の無くなるまでは救世軍は働かなければならぬ、神が大に世界を濟度する結果を現はして救世軍の働きをして早く無用ならしむるといふ紀元を來らしめて、救世をして他の事業に働かしむるやうにといふ祈禱の終りの一句を聽いて私は最も高き理想であると大に感激したのであります、併しながら救世軍の働きは何れの日か此目的を達し得るや、私は現在の働きに大なる讚美と大なる尊敬を拂ふのであります、是と同じやうな關係で私は願はくば禁酒會をして其働きの無用なる日を見せしめよ、と云はなければならぬ、(拍手喝采)世の中に酒のために犯罪をする者があり、酒のために墮落する者があり、酒のために貧困に迫る者があり、酒のために逃走する者があり、酒のために人に迷惑をかける者があり、狂癪する者があればこそ、今日世界の慈善家、世界の有志家が此の如く其事業に活動して日本では安藤君を始め安藤君の率ひらるゝところの會員が働くのであります、若し酒が無くなり日本政府の七千萬圓の收入が無くなるといふ時代が來たならば、私は非常に結構なことであらうと思ふ、願はくば七千萬圓の税源の涸るゝ時を早く來らしめ給へと救世軍の御方であつたらば祈らるゝことであらうと私は思つて居りますが、



彼の財政家とか政治家とか云ふ人が七千萬圓の無くなるのを憂ふるのは何れの日であるか  
 私は其日を早く見たいと思つて居りますが、不幸にして見ること甚だ遠くしてあらうと思  
 ひます、若し是が無くなる時代になつたならば殆ど世に墮落者も無く、世に犯罪者も無く  
 貧民もなく、疾病癡狂者も無いといふやうな有様であつて、必ず救世軍が無くなると同じ  
 やうに禁酒會も無くなつてしまひ、七千萬圓の國庫の收入が無くなつてしまふ、それと同  
 時に國民の富に二億三千萬圓だけ餘りが出來て、是が或は教育費に使はれるとか、勸業費  
 に使はれるとか、美術獎勵費に使はれるとか、其他種々なる良きところの事業に使はれて  
 國が大層繁昌する、是と同時に禁酒會の御方は他の方面に喜んで働かれるであらうと思ひ  
 ますから、決して政治家、財政家が七千萬圓の國庫の收入の無くなるのを憂ふるに及ばぬ  
 と考へる(拍手喝采)無くなつたならば結構であります、併し無くなることを望んで今日  
 に於て救世軍の祈る如く禁酒會が祈らるゝとも其祈の實現されることは前途遠いことであ  
 らうと考へますが故に、禁酒會は如何なる障礙に遇はうとも如何なる反對に遭はうとも此  
 反對、此障礙を乗越へて早く七千萬圓の財源を無くなすことに盡力せられんことを私は切  
 に望むのであります(拍手喝采)之を憂ふるのは甚だ謂れのないことでありまして、私は是  
 に付て論難的、冷評的に此の如き議論を爲すにあらずして計算上確に斯く信ずるのであ

りますから二億三千萬圓といふ金が若し酒のために使はれなければ是は決して死んで居る  
 金ではないから必ず良き所に使はれるのであつて、國の富は大に殖へ之を以つて公債を償  
 却すれば直に公債は額面迄に上るのである、之を以て他の財源に供給すれば商工業は大に  
 繁昌するのである、之を以て租税を減ずることに致しますれば日本國民は大に裕になるの  
 であつて、何れの方面に於ても一害を見ずして百利ありといふのが此禁酒會の働である  
 と思ひますから、區々たる反對は殆ど齒牙に懸けるに足らぬと思つて居る、自分が斯く思  
 つて居るところへ安藤君が言へつしやるから、私の思つて居る事を新たなる材料を蒐め  
 る暇なくして即席の考へを申したのであります、甚だ不行届、不調ではあります、此論旨  
 だけを私は信じて一點の疑の無き所を申述べたのであります。(大拍手大喝采)





島田三郎君演説

酒禍の實驗

全一冊 發刊

▲定價金五錢 ▲郵税金貳錢 (五十部以上二割引)

唯一の本禁酒雜誌 毎月十日發刊

國の光

定價 半年分 六部 金拾錢  
一年分 十二部 金二十錢

「國の光」は個人の良友たると同時に、家庭の保護者にして、又社會の救濟者たり愛國憂世の人士、前途有望の青年には、宜しく常に一本を座右に備ふべし、

明治四十二年二月 國の光社編輯部

發行所 東京市京橋區西紺屋町二十番地 日本禁酒同盟會本部  
大賣捌所 教文館、警醒社、中庸堂

◎禁酒會に入會の手續を  
吾が禁酒會は日本全國、朝鮮、滿洲、上海、臺灣、布哇、米國等に設置ありて、而して其規則は各團體共大同小異にして、概略左の如し。  
(一)入會志願者は左の如き誓約書に記名すべし

誓約書

私儀貴會ノ目的ヲ賛成シ會員タランコトヲ願出候上ハ規則ヲ遵守シ一切酒類ノ飲用ヲ嚴禁シ且社會飲酒ノ弊風ヲ矯正スル爲ニ盡力センコトヲ誓約シ年々月日 何府縣郡市町村番地 姓名 職業 生年月日

何々禁酒會御中 何府縣郡市町村番地 姓名 職業 生年月日

何府縣郡市町村番地 姓名 職業 生年月日

(紙半紙半紙川)

(二)會員は必ず一定の徽章を佩用すべし事  
(三)會費は大抵毎月拾錢位にして外に同盟會費として一ヶ年に拾錢を納む可き事  
(四)會員にして會費を納むる者には毎月發兌の「國の光」雜誌を無代價にて配附すべし事  
(五)各地方禁酒會の所在地不明の節は東京市京橋區本部又は同市麻布區本村町二十二番地の内へ郵券或錢相添て問合せあれば同盟會一覽表及規則書を送附すべし

東京市京橋區西紺屋町二十番地  
日本禁酒同盟會本部  
電話新橋第百十三番

明治四十二年二月

明治四十二年二月一日印刷  
明治四十二年二月廿日發行

編輯者 佐久間 衡治

印刷者 石川 金太郎

印刷所 東京市京橋區西紺屋町廿六七番地 株式會社 秀英 舍

發行所 東京市京橋區西紺屋町二十番地 銀座會館

259  
115



